



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-245929

(P2001-245929A)

(43) 公開日 平成13年9月11日 (2001.9.11)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テマコード (参考)
A 6 1 F 13/74		A 4 1 B 9/04	C 3 B 0 2 8
// A 4 1 B 9/04		A 6 1 F 13/16	3 1 5

審査請求 未請求 請求項の数10 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願2000-60267 (P2000-60267)

(22) 出願日 平成12年3月6日 (2000.3.6)

(71) 出願人 000115108

ユニ・チャーム株式会社

愛媛県川之江市金生町下分182番地

(72) 発明者 野崎 哲

香川県三豊郡豊浜町和田浜高須賀1531-7

ユニ・チャーム株式会社テクニカルセン
ター内

(72) 発明者 和田 充弘

香川県三豊郡豊浜町和田浜高須賀1531-7

ユニ・チャーム株式会社テクニカルセン
ター内

(74) 代理人 100085453

弁理士 野▲崎▼ 照夫

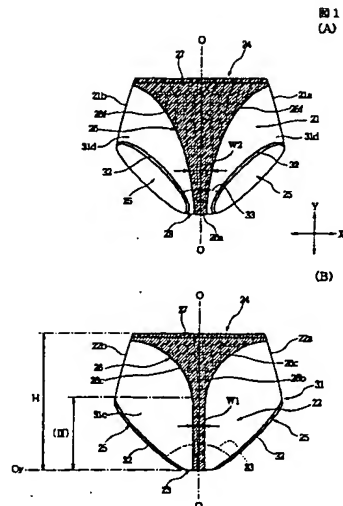
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 生理用ショーツ

(57) 【要約】

【課題】 従来の生理用ショーツは、生理用ナプキンを股間部に確実に密着させることができず、また弾性糸を有するものでは、ショーツがずり下がりやすく、また皺が発生しやすい。

【解決手段】 前身頃21、股下部23および後身頃22に渡って伸縮性素材で形成された吊上げ部材26が設けられ、その両側部に延出布31が設けられている。後身頃22において、吊上げ部材26は幅寸法が徐々に大きくなって胴回り24に至っているため、吊上げ部材の収縮応力が胴回り部24において分散するようになり、ショーツをずり下げようとする局所的な応力が作用しない。よってずり下がりにくく、生理用ナプキンを股間部に確実に密着させることができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 前身頃と、後身頃と、前記前身頃と前記後身頃との間に位置する股下部と、前記前身頃の上縁部と前記後身頃の上縁部とで形成された胴回り部と、前記前身頃の両側縁と後身頃の両側縁との接合部の下に形成される一対の脚開口部と、を有する生理用ショーツにおいて、

前記前身頃から前記股下部および前記後身頃に渡って延びる伸縮性素材で形成された吊上げ部材が設けられ、前記吊上げ部材は前記後身頃において前記胴回り部から前記股下部に向けて幅寸法が徐々に短くなるように形成されており、

少なくとも前記股下部では、前記吊上げ部材の両側から前記脚開口部へ延びる延出布が設けられていることを特徴とする生理用ショーツ。

【請求項2】 前記股下部では、前記吊上げ部材の幅寸法W1が10mm以上で40mm以下である請求項1記載の生理用ショーツ。

【請求項3】 前記吊上げ部材には、幅寸法が前記W1の範囲内となる幅細部が、前記股下部から前記後身頃の途中に渡って設けられている請求項2記載の生理用ショーツ。

【請求項4】 前身頃に位置する吊上げ部材の両側部と、後身頃に位置する吊上げ部材の両側部とが接合されて、前記胴回り部が、前記吊上げ部材を形成する前記伸縮素材で形成されている請求項1ないし3のいずれかに記載の生理用ショーツ。

【請求項5】 前記延出布は、前記股下部から前記後身頃に渡って設けられ、前記股下部から前記後身頃に渡って延びる前記延出布により戻受け部が形成されている請求項1ないし4のいずれかに記載の生理用ショーツ。

【請求項6】 前身頃においても、前記吊上げ部材から両側方に延びる延出布が設けられ、前身頃に位置する前記延出布の両側部と、前記後身頃に位置する前記延出布とが接合されて、前記脚開口部の周囲全周が前記延出布の素材で形成されている請求項5記載の生理用ショーツ。

【請求項7】 前記前身頃が、前記吊上げ部材を形成する素材のみで形成されている請求項1ないし5のいずれかに記載の生理用ショーツ。

【請求項8】 前記延出布を形成する素材は、伸縮性を有しないもの、または同じ引張り力を与えたときの伸び量が前記吊上げ部材よりも小さいものである請求項1ないし7のいずれかに記載の生理用ショーツ。

【請求項9】 前記延出布を形成する素材は、伸縮性を有し、同じ長さまで延ばしたときの収縮応力が前記吊上げ部材を形成する伸縮素材の収縮応力よりも低いものである請求項1ないし7のいずれかに記載の生理用ショーツ。

【請求項10】 前記股下部または、前記股下部から前

記後身頃に向って延びる部分の内側に、伸縮性で且つ透湿性の防水帯が取り付けられている請求項1ないし9のいずれかに記載の生理用ショーツ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、装着性及び着用感に優れた生理用ショーツに関する。

【0002】

【従来の技術】生理用ショーツは、経血の漏れや外部への浸み出しを防止するため、通常の女性用ショーツの股布部内側に防水布を追加して縫着した構造となっているのが一般的である。前記生理用ショーツは、スポーツ、就寝時、身体の動きや姿勢の変化等による横漏れ等を防止することが必要であるため、前記防水布の縫着位置や面積が工夫され、また生理用ショーツ全体の構造も、生理用ナプキンの装着性及び着用感を優れたものにする工夫がなされている。

【0003】特表平9-504194号公報には、上記のような工夫がなされた生理用ショーツが開示されている。図5は、前記公報に開示された生理用ショーツのうち代表的なものを示したものであり、(A)は正面図、(B)は背面図である。

【0004】図5に示す生理用ショーツは、前方部1、後方部2及び股下部3で構成されている。前記生理用ショーツは、ウエスト部において前記前方部1及び前記後方部2に沿って取り付けられた弾性リボン4、5で形成されたウエスト弾性体と、前記弾性リボン4と前記弾性リボン5の両側を接合することで形成される一対の脚開口部6、7を有している。

【0005】さらに、前記生理用ショーツには、中心線O-Oに沿って、前方部1、股下部3及び後方部2を通る弾性糸11、12を有しており、この弾性糸11、12の端部は前記弾性リボン4と前記弾性リボン5に接合されている。前記弾性糸11、12は、前方部1においては、股下部3の中心線O-Oの近傍から前記弾性リボン4に向かって間隔が徐々に広がるように配置され、後方部2においては、股下部3の中心線O-Oの近傍から、前記弾性糸11、12が互いに平行に、前記弾性リボン5へ向かって延びている。

【0006】さらに前記弾性糸11、12の配置位置の側方には別の弾性糸13、14が取付けられている。この弾性糸13、14は、前方部1、股下部3及び後方部2に渡って延び、その端部が前記弾性リボン4及び5に接続されている。この弾性糸13、14は、前記中心線O-Oに沿って、前記股下部3から各弾性リボン4及び5に向って間隔が徐々に広がるように取付けられている。

【0007】図5に示した生理用ショーツでは、股下部3においては4本の弾性糸11、12、13、14により、生理用ナプキンを身体に押し付けるようにし、また

弾性糸11、12、13、14で股下部3を上方に吊上げるようにして、股下部3での生理用ナプキンの横ずれを防止し、生理用ナプキンからの経血の漏れや外部への浸み出しを防止できるようにしている。

【0008】

【発明が解決しようとする課題】しかし、前記従来の生理用ショーツでは、股下部3を吊上げるための弾性部材として4本の細い弾性糸11、12、13、14を用いている。よって、前方部1の下方位置および後方部2での下方位置では、細い弾性糸11、12、13、14が

間隔を開けた状態で、装着者の肌に局部的に当たるために、着用感が非常に悪くなる。
【0009】また、股下部3に装着される生理用ナプキンを吊上げる機能を有する弾性糸11、12、13、14が、生理用ショーツの前方部1及び後方部2において弾性リボン4及び5に対してそれぞれ1点で接合された構造である。ここで弾性リボン4及び5がその弾性力により身体

のウエスト部へ密着する際、ショーツのずり下がり

を防止しているのは主に弾性リボンの両側部であり、腹側と背側（尻側）では、弾性リボンと身体との密着度がやや低くなっているのが一般的である。
【0010】したがって、弾性糸11、12、13、14がそれぞれ1点で弾性バンド及び5に接続されていると、弾性糸の収縮張力が弾性リボン4及び5に局部的に作用することになり、前記腹側および背側（尻側）に当たっている弾性リボン4及び5が股下部3に向って湾曲しやすい。その結果ショーツがずり下がりやすくなる。また弾性糸11、12、13、14の中央線〇〇に沿う方向の弾性収縮力が低下することになるため、生理用ナプキンを股下部3の内側において身体に弾性的に押圧する力そのものが低下し、生理用ナプキンのずれが発生しやすい。

【0011】また基本的に細い弾性糸11、12、13、14が前方部1および後方部2を形成する布に取付けられた構造であるため、弾性糸11、12、13、14の部分で前記布に皺が発生しやすい。また前記のように、装着した状態で弾性糸11、12、13、14の緩みが発生しやすい構造であるため、ショーツをしっかり

と引き上げて着用しても、弾性糸の部分で布に皺が発生しやすい。
【0012】前記皺は、身体の腹部や背部（尻部）において装着者の肌に違和感を感じさせることになり、着用感が非常に悪くなる。また前記皺が外装のパンツなどにも影響を与え、外から皺の発生が見える不都合もある。
【0013】本発明は、上記のような問題点を解決するためになされたものであり、股下部に装着される生理用ナプキンを吊上げる機能を発揮する弾性部材の緩みを防止できるようにして、生理用ナプキンの横ずれを防止できるようにするとともに、ずり下がりやすく、皺が発生

しにくい生理用ショーツを提供することを目的としている。

【0014】

【課題を解決するための手段】本発明は、前身頃と、後身頃と、前記前身頃と前記後身頃との間に位置する股下部と、前記前身頃の上縁部と前記後身頃の上縁部とで形成された胴回り部と、前記前身頃の両側縁と後身頃の両側縁との接合部の下に形成される一対の脚開口部と、を有する生理用ショーツにおいて、前記前身頃から前記股下部および前記後身頃に渡って延びる伸縮性素材で形成された吊上げ部材が設けられ、前記吊上げ部材は前記後身頃において前記胴回り部から前記股下部に向けて幅寸法が徐々に短くなるように形成されており、少なくとも前記股下部では、前記吊上げ部材の両側から前記脚開口部へ延びる延出布が設けられていることを特徴とするものである。

【0015】また、前記股下部では、前記吊上げ部材の幅寸法W1が10mm以上で40mm以下であることが好ましく、さらに好ましくは20mm以上で40mm以下である。

【0016】さらに、前記吊上げ部材には、幅寸法が前記W1の範囲内となる幅細部が、前記股下部から前記後身頃の途中に渡って設けられていることが好ましい。

【0017】また、前身頃に位置する吊上げ部材の両側部と、後身頃に位置する吊上げ部材の両側部とが接合されて、前記胴回り部が、前記吊上げ部材を形成する前記伸縮素材で形成されていることが好ましい。

【0018】また、前記延出布は、前記股下部から前記後身頃に渡って設けられ、前記股下部から前記後身頃に渡って延びる前記延出布により尻受け部が形成されているものとすることができる。

【0019】あるいは、前身頃においても、前記吊上げ部材から両側方に延びる延出布が設けられ、前身頃に位置する前記延出布の両側部と、前記後身頃に位置する前記延出布とが接合されて、前記脚開口部の周囲全周が前記延出布の素材で形成されているものとすることも可能である。

【0020】また、前記前身頃が、前記吊上げ部材を形成する素材のみで形成されてもよい。

【0021】前記延出布を形成する素材は、伸縮性を有しないもの、または同じ引張り力を与えたときの伸び量が前記吊上げ部材よりも小さいものである。あるいは前記延出布を形成する素材は、伸縮性を有し、同じ長さまで延ばしたときの収縮応力が前記吊上げ部材を形成する伸縮素材の収縮応力よりも低いものである。

【0022】前記において、前記股下部または、前記股下部から前記後身頃に向って延びる部分の内側に、伸縮性で且つ透湿性の防水帯が取り付けられていることが好ましい。

【0023】本発明の生理用ショーツは、伸縮性を有す

る素材で形成された吊上げ部材が、股下部から後身頃の胴回り部に渡って設けられ、この吊上げ部材は股下部から徐々に幅寸法が広がって前記胴回り部に至っている。よって、胴回り部において吊上げ部材の収縮張力が局部的に作用することがなく、胴回り部の各部に分散して作用する。

【0024】よって、ショーツがずり下がりにくくなり、後身頃の全体が臀部または尻部に密着しやすくなる。したがって吊上げ部材が緩みにくくなって、股下部において生理用ナブキンが身体に確実に密着させられて横ずれを発生しにくい。さらに後身頃に皺が発生しにくくなる。また後身頃では、吊上げ部材の両側方において伸縮性の低い延出布が設けられているため、この延出布によって、通常のショーツと同様に臀部を支えることができる。

【0025】

【発明の実施の形態】以下、本発明の生理用ショーツについて図面を参照して説明する。図1及び図2は本発明の第一の実施の形態の生理用ショーツを示すものであり図1(A)は正面図、図1(B)は背面図、図2はその展開平面図である。

【0026】図1と図2に示す生理用ショーツは、前身頃21、後身頃22、股下部23で構成されている。

【0027】図1と図2では、前身頃21、股下部23、後身頃22が連続するY方向を縦方向とし、これと直交するX方向を横方向とする。また横方向の中心で縦方向に延びる中央線をO-Oとする。

【0028】図2に示す、前身頃21の側縁21aと後身頃22の側縁22aとが接合され、前身頃21の側縁21bと後身頃22の側縁22bとが接合されることで、胴回り部24および脚開口部25、25を有するショーツが形成される。

【0029】前記ショーツの横方向の中心領域では、前記中心線O-Oに沿って、吊上げ部材26が設けられている。この吊上げ部材26は、高伸縮性の素材で形成されており、伸縮性の不織布、ゴム糸などの弾性糸が織り込まれた伸縮性の織布、または多数の開孔を有する通気性のゴムシートなどで形成されている。

【0030】吊上げ部材26は、股下部23において幅寸法がW1が10mm以上で40mm以下好ましくは20mm以上で40mm以下の幅細部26aとなっている。この幅細部26aはショーツの股下部23の最下端Oyを中心として縦方向へ少なくとも50mm以上の範囲で延びる股下領域(1)において形成されている。また前記股下部23から後身頃22の中腹部にかかる境界領域(11)においても、吊上げ部材26は幅寸法が前記W1の範囲の幅細部26bとなっている。

【0031】前記領域(1)(11)における前記幅細部26a、26bの幅寸法は一定であってもよいし、あるいは前記数値範囲W1内で幅寸法が変化していてもよ

い。

【0032】後身頃22において、前記境界領域(11)を超えた位置から胴回り部24に向って、前記吊上げ部材26に凹状の湾曲縁部26c、26cが形成されて、前記吊上げ部材26のX方向の幅寸法が徐々に大きくなっている。そして、後身頃22の胴回り部24(胴回り部の後部)においては、吊上げ部材26の幅寸法が、胴回り部24のX方向の幅寸法の全長と一致している。

【0033】吊上げ部材26の前記幅寸法がW1となる前記境界領域(11)の長さは、図1(B)に示すように、ショーツを身体に装着させる立体形状としたときの、ショーツの前記最下端Oyからの高さ寸法をHとしたときに、前記最下端Oyから前記境界領域(11)の上限までの高さ(111)が、前記高さ寸法Hの4/5以下で、1/4以上であることが好ましい。

【0034】前記幅寸法W1は、生理用ナブキンの幅寸法よりも小さくするように設定されている。生理用ナブキンの本体部分(ウイングを除く部分)の幅寸法は40~70mmの範囲であるため、前記股下部23に位置する吊上げ部材26の幅細部26aの幅寸法W1は前記のように10mm以上で40mm以下であることが好ましい。

【0035】前記股下部23から後身頃22にかけての境界領域(11)における吊上げ部材26の幅細部26bの幅寸法が前記W1の範囲であり、この境界領域(11)の長さがショーツの高さHの4/5以下で1/4以上であるため、ショーツを装着したときには、前記幅細部26bが、臀部の谷部に入るように装着される。

【0036】前身頃21では、吊上げ部材26の幅寸法が前記股下部23の(1)の領域を超えた位置からそのまま幅寸法が徐々に大きくなるように、凹状の湾曲縁部26f、26fを有している。そして前身頃21の胴回り部24(胴回り部の前部)では、吊上げ部材26の幅寸法が胴回り部24の全長に渡って一致している。また、図1に示すように、ショーツが身体に装着される立体形状となった状態で、後身頃22の吊上げ部材26の幅寸法が前記W1である箇所に対向する前身頃21において、前記吊上げ部材26の幅寸法W2が前記W1よりも大きくなっている。

【0037】前身頃21において吊上げ部材26の幅寸法W2が、後身頃22での吊上げ部材26の幅寸法W1よりも広がっているため、装着したときに恥骨部分や下腹部に局所的な圧迫感を与えられない。

【0038】図2に示すように、前身頃21の胴回り部においては、前記吊上げ部材26の縁部26d、26dが、前身頃21の側縁21a、21bに一致しており、後身頃22の胴回り部においても、吊上げ部材26の縁部26e、26eが前記後身頃21の側縁22a、22bに一致している。よって図1に示すように、ショーツ

が形成された状態では、前記縁部26dと26eが胴回り部分で接合され、ショーツの胴回り24の全周が前記吊上げ部材26と同じ素材で形成されている。

【0039】そして、胴回り部24では、その全周に渡って弾性部材27が取付けられており、胴回り部24の全周において身体に弾性的に当たるウエストバンドが形成されている。

【0040】図1と図2に示す生理用ショーツでは、前記吊上げ部材26の両側方に延出布31、31が設けられている。延出布31、31と吊上げ部材26とは、その境界部において互いに縫合されていてもよいし、またはショーツ全体が前記延出布31により形成され、その中央部分に前記吊上げ部材26が重ねられて縫合されているものであってもよい。

【0041】前記延出布31は、織布または不織布などであるが、延出布31はほとんど伸縮性を呈しない布で形成されている。あるいは、吊上げ部材26の素材と延出布31の素材を同じ幅寸法とし、同じ引っ張り力を与えたときに、その伸び量は、吊上げ部材26の素材の方が延出布31の素材よりも長くなるよう各素材が選択されている。あるいは、延出布31が伸縮性素材であり、吊上げ部材26の素材と延出布31の素材を同じ幅寸法とし、同じ長さだけ引張ったときに、吊上げ部材26の素材の収縮応力が、延出布31の素材の収縮応力よりも強くなるように、各素材が選択されている。

【0042】図1と図2に示すものでは、前記延出布31が、前身頃21、後身頃22および股下部23の全ての領域に渡って設けられている。そして、前身頃21では、延出布31の両端部31a、31aが前身頃21の側縁21a、21bと一致し、後身頃22においての延出布31の両端部31b、31bが後身頃22の側縁22a、22bと一致している。

【0043】よって、図1に示すようにショーツが形成された状態では、延出布31の前記両端部31a、31aと、両端部31b、31bとが接合され、この延出布31の接合部の下に脚開口部25、25が形成されている。すなわち脚開口部25、25の周囲全周が、前記延出布31の素材で形成されている。また脚開口部25、25の周縁部には、弾性部材32が全周に設けられ、脚締付バンドが形成されている。

【0044】股下部23において、前記吊上げ部材26および延出布31を含んだ幅寸法W2は、生理用ナブキンの本体部分の幅寸法とほぼ一致しており、好ましくは30mm以上で70mm以下である。この股下部23では、内側に伸縮性で且つ透湿性の防水帯33が取り付けられている。

【0045】また股下部23から後身頃22に延びる前記延出布31により尻受け部31cが形成され、股下部23から前身頃21に延びる前記延出布31により、下腹部受け部31dが形成されている。

【0046】図1および図2に示す生理用ショーツは、股下部23の内側に例えばウイング付きなどの生理用ナブキンを設置した状態で着用する。着用状態では、前身頃21、股下部23および後身頃22に渡って伸縮性素材で形成された吊上げ部材26が設けられているため、ショーツを装着した状態で、股下部23の内側に設置された生理用ナブキンが、前記吊上げ部材26の弾性力を受けて、身体に確実に押し付けられるようになる。

【0047】ここで、股下部23では、吊上げ部材26の幅細部26aの幅寸法W1が生理用ナブキンの本体部分よりも幅が細くなっているため、生理用ナブキンの幅方向での中央部分が前記幅細部26aにより身体に押し付けられる。すなわち生理用ナブキンは幅方向の中央部が身体側へ凸形状となる状態で身体に押し付けられるため、生理用ナブキンの本体部分が身体に確実に密着する。また、股下部23では吊上げ部材26の幅細部26aの両側に延出布31が延びており、この延出布31は吊上げ部材26よりも伸縮性が劣りあるいは吊上げ部材よりの収縮応力の小さい伸縮性素材により形成されているため、生理用ナブキンの前記吊上げ部材26の両側にはみ出している部分は、前記延出布31により身体に軽く押圧される状態となる。

【0048】また、吊上げ部材26は境界領域(11)において幅寸法がW1の幅細部26bとなっているので、幅細部26bは臀部の谷間に入るように装着される。幅細部26bが臀部の谷間に入り込むことにより、股下部では幅細部26aが身体の股間部から離れにくくなり、股下部23において生理用ナブキンの中央部が身体にしっかり押し付けられる。

【0049】このような状態で身体に密着している生理用ナブキンは、横方向へ位置ずれしにくく、また中央部が凸形状となって身体に密着しているため、生理用ナブキンからの経血の横流れが生じにくく、またショーツからの経血の横流れも生じにくい。

【0050】また、図1(B)に示すように後身頃22では、吊上げ部材26に前記幅細部26bに連続する湾曲縁部26c、26cが形成されて、吊上げ部材26は幅寸法が徐々に大きくなりながら胴回り部24に至っている。また前身頃21においても、吊上げ部材26は湾曲縁部26fを有することによって幅寸法が徐々に大きくなりながら胴回り部24に至っている。そして胴回り部24の周囲全長が前記吊上げ部材26の素材で形成されている。

【0051】前身頃21と後身頃22において、特に前記後身頃22において吊上げ部材26の幅寸法が徐々に大きくなって胴回り部24に至る形状であるため、生理用ナブキンを吊上げている吊上げ部材26の収縮応力が、胴回り部24において局部的に集中することがなく、前記応力が胴回り部24の全長に渡って分布した状態となる。

【0052】したがって、図5に示した従来例のように胴回り部24が股下方向へ局部的に湾曲するようなことがなく、胴回り部24が身体に確実に密着しやすい。すなわち胴回り部24では弾性部材27の弾性収縮力および吊上げ部材26を形成する素材の弾性収縮力によって身体の胴回りに密着する。このとき図1の左右両側部分では、胴回りが身体の腰骨の部分に掛かって下がるのが防止され、また前記のように吊上げ部材26の収縮応力が背部および腹部において胴回り部24の全長に渡って分布することになるため、装着中の身体の動きによって

10 ショーツがずり下がりにくくなる。
【0053】よって、股下部23において生理用ナブキンを押さええている吊上げ部材26の幅細部26aに緩みが生じにくくなり、股間部に装着されている生理用ナブキンが動きずらくなる。

【0054】また、吊上げ部材26は身体の股間部から臀部の谷部および尻上部にかけて身体に密着するため、吊上げ部材26の部分に緩みによる皺が発生しにくく、また身体への装着感が優れたものとなる。

【0055】図3は本発明の生理用ショーツの第二の実施の形態を示すものであり、(A)は正面図、(B)は背面図、図4はその展開平面図である。

【0056】図3および図4に示す生理用ショーツでは、図1および図2に示すのとはほぼ同じ形状の吊上げ部材26が設けられている。吊上げ部材26は股下部23において幅寸法が前記W1の幅細部26aであり、股下部23から後身頃22にかけての境界領域いも前記幅寸法W1の幅細部26bが設けられている。そして、後身頃22では、前記幅細部26bに連続する凹状の湾曲縁部26c、26cが形成され、吊上げ部材26の幅寸法

30 が徐々に大きくなって胴回り部24に至っている。
【0057】また前身頃21においても、吊上げ部材26は湾曲縁部26f、26fを有しており、吊上げ部材26は幅寸法が徐々に大きくなって胴回り部24に至っている。

【0058】図3と図4に示す実施の形態では、図1に示した延出布31と同じ素材で形成された延出布41が設けられ、この延出布41は吊上げ部材26の両側部から延出している。ただし、図3と図4に示すものでは、延出布41が股下部23における幅細部26aの両側から、後身頃22の吊上げ部材26の両側に至る領域にのみ設けられており、前身頃21には延出布41が設けられていない。

【0059】図3に示すように、ショーツが形成された状態では、前身頃21に位置する吊上げ部材26の幅方向の両端部と、後身頃22に位置する吊上げ部材26の幅方向の両端部とが接合されて、胴回り部24の全周に渡って吊上げ部材26を構成する素材が連結されてい

る。

【0060】また股下部23では、吊上げ部材26および延出布41の全幅寸法が図2に示したのと同じW3である。また後身頃22では、前記延出布41により尻受け部41c、41cが形成されている。

【0061】図3と図4に示す生理用ショーツも、図1と図2に示したのと同じ機能を有しており、股下部23に接地される生理用ナブキンが身体に確実に密着させられる。また吊り下げ部材26の伸縮応力が胴回り部24の全長に分散するため、ずり下がりがなく皺が発生しにくくなり、身体に確実に密着する。

【0062】なお、図4に示すように、延出布41の縁部に弾性部材42を設けて脚回り開口部25を締め付けるバンドを形成してもよい。

【0063】上記のように、本発明の生理用ショーツでは、延出布31が前身頃21、股下部23および後身頃22の全領域に設けられもよいし、延出布41が股下部および後身頃22にのみ設けられてもよい。さらに、後身頃22に尻受け部を形成するような延出布を設けず、股下部23においてのみ吊上げ部材の両側に延出布を設けたものであってもよい。

【0064】

【発明の効果】以上説明したように、本発明の生理用ショーツは、生理用ナブキンを凸状に変形させ、その状態で常に身体に密着させることで漏れを防ぐことができる。また吊上げ部材の伸縮応力が胴回りで分散することにより、ショーツがずり下がりにくくなり、よってナブキンを押さえ付ける力が緩むことなく、皺も発生しにくい。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1の実施の形態の生理用ショーツを示すものであり、(A)は正面図、(B)は背面図、

【図2】図1に示す生理用ショーツの展開図、

【図3】本発明の第2の実施の形態の生理用ショーツを示すものであり、(A)は正面図、(B)は背面図、

【図4】図3に示す生理用ショーツの展開図、

【図5】従来の生理用ショーツを示すものであり、

(A)は正面図、(B)は背面図、

【符号の説明】

21 前身頃

22 後身頃

23 股下部

24 胴回り部

25 脚開口部

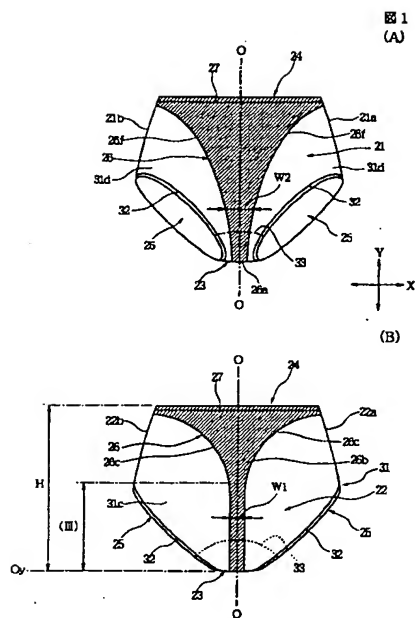
26 吊上げ部材

26a、26b 幅細部

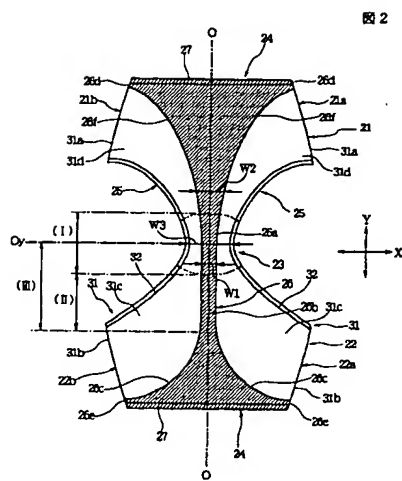
26c、26f 湾曲縁部

31、41 延出布

〔図1〕

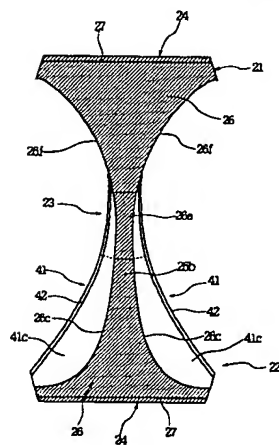


〔図2〕

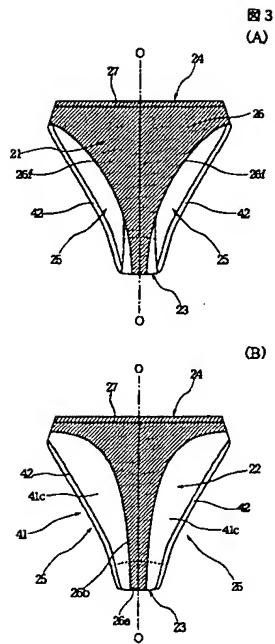


〔図4〕

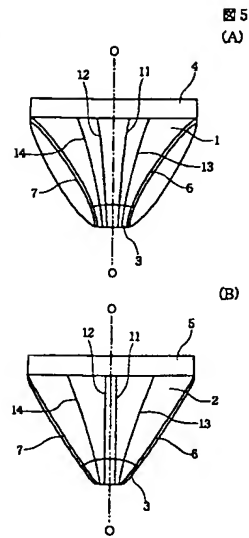
図4



【図3】



【図5】



フロントページの続き

(72)発明者 菅 文美
香川県三豊郡豊浜町和田浜高須賀1531-7
ユニ・チャーム株式会社テクニカルセン
ター内

Fターム(参考) 38028 EA02 EB14 EB15 EB16 EB31
EC02 EC04 EC12